

# 大日本蚕史 正史 1

復刊版



群馬地域文化振興会

從五位速水堅曹補修  
佐野 瑛纂訂

# 大日本書紀

正史

慶一居藏版



## 自序に代ふる辭

余敢て自ら揣らず本邦蠶業沿革史書の未だ世に具はらざるを嘆ずるの餘り聊か其不備を補修せんと企て漫然本稿を起せしは今を距る八年前即ち明治二十三年の孟冬第一帝國議會が將に開院せんとするの頃ひなりき

當時余か篋底に秘藏したりしは日本蠶業沿革論と題せる一篇にして素是れ半井榮氏か大日本農會のために演說せし筆記文なるが愚竊かに之を以て本邦蠶業界唯一の木鐸なりと思惟し乃ち此に本づきて大日本蠶史編纂の初程を發する事とし而して徐ろに調査の進行を計りしも余が住する所の地僻にして這般の事業を營むに便ならず資料の蒐集に當り

適々古文書保存の聞ゑある地方舊家の一二を發見し之に即きて求むる所あらんとするも機縁契はずして信用太た薄く間々又媚嫉者の阻む所となりて常に其目的を達する能はず余をして空しく迷津望洋の感を生せしめぬ

其斯の如くなりしもの蓋し故あり余は當時籍を靜岡縣に置き居を東駿に占めたりと雖も實は該地の産にあらず本貫は則ち山梨縣甲斐國に在り明治十九年春駿人佐野氏(余が生家  
と同姓)の家を繼ぐ事となり新に入籍したるものなれば地方的感情より目するに輸入人種を以てし公共の事業に着眼し些しく出頭し來らんとするあれば讒誣誹謗排斥の裡に埋れしむ又是非なき境遇なり是に於て意を決し人に謀らず私かに材料の索め易き部分即ち其近世史より漸々調査を始め時に或は生國甲斐の名族を訪問して多少の資料を得つゝ時日を経過し二十四年歲末に至つて稍々百餘

頁の一小冊子を編成しぬ是れ舊稿日本蠶史と題して今尙ほ篋底に存するものなり而も此書甚た簡略にして僅かに本邦蠶業の概要を窺ふ可きのみ未だ以て已れが期する蠶史の功を就すに及ばざるや遠し

此頃よりして余は病に罹り爲めに左腕の自由を失せんとす二十五年の春縣下大小の醫師に就きて治療を請ひしに皆効なし止むを得ず是年八月上京して帝國大學第一醫院に投じ國手の施術に依り幸にして病苦を去り復た家事を省するのとなりたれど治療の機已に失して終に長へに不具の軀たるを免れざりき然れども此病魔は余か蠶史を編纂する上に於て偉大の助力を與へたり蓋し勞働に身を委せんとするも手腕の不具は之に耐ふべきにあらず寧ろ益々初志を貫徹せしめて斯業の資益に供するに如かずと不慮の厄難は余に教ふるに死中生を得るの活法を以てし茲に強固の決心を惹起したれば乃ち同年十一月初旬意を密めて

行李を装へ告げずして家國を去り蠶地の實際視察に従事す先づ東京に出で安房上總下總常陸下野上野武藏を巡りて信濃に入り甲斐を経て駿河を過り遠江三河尾張美濃近江山城攝津を順歴し更に路を轉して大和伊賀伊勢を周遊し二十六年二月に至り東京に歸り採集資料の修整に従ひ傍はら東京圖書館に就きて六國史を始め幾多の雜書を調査しつゝ爰に數十日を送りたりき

一日本郷街を通行する際其二丁目古書舗の店頭にて日本蠶桑史略なる一小冊を見著けぬ取りて其奥附を閲れば明治二十三年の出版にして著者は須永球氏なり驚きて謂へらく之ある哉余復た何をか勞せんと直に其書を購うて偶に歸り再思すらく先輩既に此好著を成すを見る今に於て寧ろ余が編纂を止む可きかと既にして通讀一過稍々該書の性質を曉すを得更に思惟すらく彼の半井氏の演述に係る沿革論と云ひ此の須永

氏の著日本蠶桑史略と云ひ俱に是れ蠶政上の大要を編纂せられし者なり蠶業の歴史は未だ之を以て決して充分なりと爲す可からず若し蠶業の歴史にして現業即ち育蠶上の沿革を知るべき部類を如へ尙ほ蠶政上の沿革に於ても精査する事を成さば當業者の裨益これより大なるは無からん宜しく這個の史綱を一層擴張して後進作家の規模を立つべしと乃ち更に大に發奮精を勵まし先づ本邦古昔の蠶書を羅集するに力めぬ是れ既定の計畫を變更して大日本蠶史を正史と現業史の二類に分ちし所以なり

是歲四月余は上原某の紹介を得て蠶奴たるべく志し群馬縣碓氷郡原市に赴けり是れ一は生活上の便に出つると雖も一は彼地が舊來の養蠶本場にして斯業上閱歷する所自ら他に殊なるものあるべきに由り余か得る所亦尋常ならざらんと豫期したるなり該地に至るや即ち奴として半

田家に住み込み手足の勞働或は休することあるも耳目の活動は則ち然らず勉めて老功蠶夫蠶婦の間に交はりて揀擇自ら樂しみぬ然るに五月上旬蠶兒の掃立を了するの後數日ならずして該地方未曾有の大霜あり余か從事する蠶館の業務忽ち茲に停止せらるゝの悲境に會したれば余は乃ち傭を解かれて彼の地を去り復たひ上京を急ぐの途次尙ほ藤岡熊谷島村等の各蠶場を視察して中浣着京恰も郷人の歸省を勸誘するに逢ひ懇切の情之を拒むに忍ひず遂に暫らく其意に従ふに決し飄然又故山に還り井出氏の幹旋によりて自家の養蠶に從事す

此秋業務の閑に乗じ漫遊に由つて得たる材料を整理し之を往年著作に引用し取捨増損較々其面目を改めたる者ありと雖も不備なるは則ち依然たり此時に當り飼育法變遷の次第に就き詳舉細叙せんとするも參考

書の明治以前に屬するもの僅に養蠶秘傳抄

(寶曆年中ノ開板是は塚田與右工門著作の養蠶秘書を弘化年中雀山老人の謄寫したる者あり)

養蠶秘錄(享和年  
中間板) 養蠶絹篩大成(文化年  
中間板) 養蠶弘教錄(弘化年  
中間板) 養蠶教諭集(安政年  
中間板) の五種あるに過ぎざれば姑らく之を擱きて更に育統史より調査を始め十二月中浣漸く其大綱を終はる種史の部に及び其製造法の如き亦古蠶書蒐集を待つて編成する事となし即ち現時古老の記憶する所に據り黃白繭種の沿革調査に着手す而して之を都鄙大小の蠶業雜誌或は現今刊行の蠶書に就きて對照校訂するも正鵠を得る難きが故即ち其旨趣を印刷して各府縣の當業者に配布し材料の投寄を請はんとしたり然れども此時既に資財を盡くし了はりて運動意の如くならず經營慘怛の中に空しく光陰を消しぬ茲に特に大書して謝意を表せざる可らざるものあり开は知人渡邊清渚君が余が窮を憫み懇切なる書に添ゆるに金若干を以てし大に余を鼓舞獎勵せられたる一事なり余は其好意に感じ即ち納めて之を基金となし且所有の物品を典賣して資を求め明治二十七年一月

各府縣三千有餘人に印刷物を頒ち其調査を依囑す忽ち集り到る者無慮數千通新古書籍或は特別調査書類にして卓上一時山を築けり又此の時の事なりき余が感慨を惹くもの多きが中に尤も肝に銘したるは居村上野役場の措置なりとす時に或は縣衙を経て回送らせるゝ書類等あるも故意之を抑置し余に送致するの時日を延引す曾つて長野縣廳より回送せられたる調査書の如き實に役場に留置する數十餘日其後余が再三の催促により始めて之を配附したり而して其之を配附するに當つても亡狀甚たしく例せば其文書の出處を曖昧にし宛名を闕くが如きの類失體殆んど言ふに堪へず長野縣の添書静岡縣の注意添書等は遂に交附せず後其筋の知人より報知ありたるを以て役場に至り強ひて同場綴込の書類を閲覽し該縣廳回送の注意書に就き要領を得たる事あり是れ僅かに其一斑を記するに過ぎざれども他は推して知る可き而已此事今尙ほ奇

として彼の地の談柄に上れり是より先き知人某余に勸めて曰く子が校訂に係る蠶種類の沿革記は短日月の間に成りたるものと雖も頗る其梗概を述べ得たり如かず目下當業者が蠶種撰擇に困難なる時機に投じ先づ之より出版せんにはと余も亦別に考ふる所あり則ち蠶體彙史の名を附し發行せんと廣告したり同年十月蠶史一切の資料拾集調査の爲め上京せしに某官人は本蠶史に先たち蠶體彙史を出版するの不利を説き大日本蠶史現業史と共に發刊せば一目の下能く古今の變遷を知るに足るべしと誠諭殊に切なるを以て遂に其意に従ひ投機出版の事を撤回す是より更に官人の助勢を得て昔時の蠶書數部を謄寫し且復た圖書館に入り先きの調査に漏れたる書籍を査閲し爾來滯京數ヶ月(此の間二回歸省)専ら蠶史の完成を圖りぬ又此の際蠶業大家の説話を聽かんと欲し遠近を擇まず訪問せしも余か一介の貧書生落魄粗野の風を陋として何れも面會を拒

絶せらる唯り余が請を容れ快く延見されしは蠶界の元勳從五位速水堅曹君其人なり懇談數次余に附與するに許多の史料を以てし且向後一層奮勵調査を遂げ本邦蠶業の爲め裨益する所あるべしと慈教具さに至る余か本書を編するに當り本邦開港以來明治の御代に於ける斯業の大勢を講究し得たるは實に同君の賜と云ふも不可なし

二十九年二月古郡某の爲めに既成調査の原稿を喪失せんとするの變に遭ひぬ斯は去年十二月同氏の紹介を以て某家に債務を負ひたりしが客月末其期日なるに償却を怠り延滞十數日一夕同氏と某處に會し談偶々蠶史の事に及ぶ某曰ふ子の調査に係る蠶史余私かに慮る所あり子隔意なくんば一夕原稿を余に托すべし余は是を以て某に謀り子の爲めに又資途を索むべし云云即ち之に原稿を附托す翌日訪問前夕の原稿返還を請ひしに某冷然として曰く原稿は子に返戻する能はず暫らく之を押取

するなり其故は余か紹介に係る若干金の負債子は未だ償却を了へざるに非ずや即ち返稿を願はゞ盍んぐ急に債務を了せざると余また之と争ふを欲せず直に歸寓し些少の所有品を賣却し且知友望月興二郎君(現今大學に在り)の救助を得て所要の金を調達し疾行古郡某に至り原稿引換に債務を解きたり事は余が行爲の備はらざるに發し自ら我か不徳を責むるの外なしと雖も其殘忍刻薄友情の何たるを解せざるが如き亦以て余が薄命史の一節と爲すべきなり余は是より又望月君の援助を得つゝ調査を進行す

四月時恰も春蠶季節に迫り郷里より歸國を促し來る是と同時に郷里は何の見る所あつてか旅資を古郡某(前編の人)に送附し托するに原稿を押取して郷里に回送し然る後旅資を余に供する事を以てせり余心に甚た之を快とせず既に前陳の關係あれば殊に後憂を恐れ斷然之と絶ちぬ是に於

て某は彼の旅資を直に郷里に回附し余の進退を妨げんとしたり然れども同月中浣余は歸郷して自家の養蠶に従事し遂に其年秋に及ぶ十一月上京寓居に至る是より先き四月出發の時宿主久住某に負債あり督責急なるを以て情願するに秋季の上京の時償却するを以てす即是月上京久住某を訪問し殘餘の債務を果さんとせしに豈圖らんや出發の當時預托したる衣類寢具箆笥は勿論多年辛酸に辛酸を嘗め蒐集したる參考書籍より年來各府縣衙及有志者より寄贈せられたる文書類總て一括して賣却したらんとは余呆然自失殆んと爲す所を知らず漸くにして我に復り久住に對し交渉嚴談幾回するも更に要領を得ず乃ち私かに探偵して買收商估を發顯し及賣却物品書類の存在所を取押へ各自に事の是に至る證明書を作らしめ告發訴訟國法の掩護に頼らんと決意し即ち出廷の手筈を定めたり其夕久住は人を馳せて余を訪ひ前來の過失を謝する再三

再四更に穩和の處置に出てん事を哀願せり余素より事を好みて妄りに人を窘めんとするものにあらざれば遂に彼の嘆願を容れ單に書類の買戻に着手しぬ而して其得る所失ふ所の十か一に及はず余をして轉た困頓の境に呻吟せしめき

才なく徳薄く而して多年世情に背きし余が事業や此時を以て實に險の極難の極に達し余をして一家を失亡し一身を流離するの大厄を受けしめにき既に余は前陳の状態に陥り如何ともする事能はず百方此に盡きて終に垢を含み耻を忍びて郷里の家翁に對し哀憐を求むるもの數回皆省せられず却つて嚴霜烈日の威を以て詰責せられ最後冷絶なる破情の決答に接するに至れり是に於て余翻然として覺醒し以爲へらく窮達は命なり余豈漫然依頼心を起す可けんや其偶々之有るを免れざるは蓋し生を駿地に寄せしに因る加之斯業の結果に於て失敗するに至らば今愛

を割きて人に笑はるゝよりも衷情の制し難き者あらん世上の毀譽は是れ一時而已古に言ふ死す可き時に死せされば死に勝る耻ありと信に然り今日最終の舉措に出つるは早計に似たりと雖とも由來赤貧の内に業を成さんと欲するもの區々婦女の情を爲して大事を誤る可きにあらずと心志一たび定まりて復た妻子の恩愛を顧みるに遑なく謗譏百出の間斷然として養家及關係者に對ひて離縁の請求を爲す此議は刻下に養家の認諾する所となり甲斐の生家に向つて其交渉を了しぬ意

三十年二月余は稿本の整理せる部門を取り往いて速水先生に校閲を依頼すると同時に當業者の賛成を得て事務所を本郷六丁目に設け未整の原稿を訂正す尋いで事務所の狹隘を感じ更に之を下谷仲根岸に移し大に事務を擴張し筆生數名を備入れ全稿の謄寫を命じ遂に八月に至り其整理を畢はれり本書總紙數殆んど三千餘枚其成稿の儘印行せんと欲す

るも經費の多額を要するに苦み爾來之を取捨するに勉め乃ち四閱月にして一千六百餘頁を以て完了せしめぬ

辱知竹澤章君余の爲めに憫む所あり資を投じて之が印行を資く十二月印刷所弘文舎に交附し該場作業の都合を以て荏苒日子を経過し原稿過半の組版を終へたるは本年四月中浣の事なりき然るに惡星尙余が身に崇たるを休めず不測の災害は突として地の一隅より起り來れり四月二十日事務所の近傍即ち下谷坂本町に失火あり此日西北の風吹き荒さみ恰も原燦の勢にて猛焰忽ち余が寓居に及びたり當時事務員皆出でゝ在らず余獨り炎々たる火中を奔走して重要なる幾分の荷物を持出せりと雖も凡そ斯事に従ひしより今日に至るまで前後八年の間苦心蒐集したる文籍の大半は烏有に歸し原稿の喪失したる者も正に十餘年分に亘る而して正史の明治前紀の中途より後紀の全般擧げて燒失し一時印行を

中止せんかとまで落膽せしめたり然れども此出版物や既に約に後れ信を世に失ひたるもの少小ならず然らば則ち再び之が調査に従事せんか時日に限りあり決して其完を望む可からず是に於て喪失の部門に就き倉卒調査を行ひ漸く明治前紀の後半を成せるが故印刷を終了し後紀は本書再版の時機を以て増刷する事に決定せり

嗚呼前陳の状態は本書纂訂の経過を知り得べき畧表にして亦是れ實に余が可憐の小説的境遇に生活したるを証明する一記録なり若し余をして裸體的人間ならしめずして内に情實の纏綿するなく外に有力の援助を有し最後竣功の日に慘怛たる焼失の災害なくんば必ずやより多く調査の完備を致しより速かに事業の進行を営みたらんに事の遂に斯の如くなるを得ざりしもの此の責天に在るか將た人に在るか余は言はんと欲して懽然言なきこと良久之

敢て希ふ余爾後一身を以て蠶業に委し勵精撓まず益々斯業の調査を遂行して東亞蠶絲の本末を採求し而して大日本帝國蠶業の長策を畫せんとするものゝ資料となり皇御國の恩澤に報いん事を聊か過去八年本書編纂の經過を陳して杜撰の罪を大方に謝す諸君請ふ諒焉

明治三十一年七月下浣

火災の爲め愛宕傳叟精舎に立退中  
著者 佐野 瑛 識



# 大日本蠶史

## 正史 凡例

凡

一本書世史分綴ノ方針ハ之ヲ農商務省農商務局纂訂ノ大日本農史ニ法トル者ニシテ太古上世中世近世今世ノ五世史ニ分ツ然レモ大日本農史ハ終局ヲ明治十四年農商務省設置ニ止メタリト雖モ本書ハ終局ヲ明治三十年蠶種検査法案ガ國法ト認メラレタル時ヲ以テ終局トナス

一今世史ヲ前後二紀ニ分シハ明治十一年蠶業諸規則ノ廢セラレテ以降斯業ノ爲又其必要ヲ感シ明治十八年農商務省令ヲ以テ蠶絲業組合準則ヲ發布シタル時ヲ以テ前紀トナセリ斯ハ一般蠶業上改良ノ方針凡テ十八年以前ト以後ト全然方針ノ異ナル場合アルヲ認メシヲ以テナリ

一本書ヲ正史現業史ノ二類ニ分綴セシハ行政上ノ沿革ト實業上ノ沿革トハ主客ノ相違アルヲ以テ殊ニ二類ニ分チタリ現業史ノ要項ハ該凡例ニ就テ諒知スベシ

# 大 日 本 蠶 史

一 余本書ノ稿ハ明治二十三年冬創メシ者ニシテ其事蹟ノ考證スベキ者幾千ノ書ニ散在シ得ルニ隨ツテ徵證ノ出處ヲ記載スル所アリシモ災害ノ身ニ纏フモノ自序ニ陳スルガ如クナレハ或ハ失シ或ハ忘脱シ據ルニ苦ム者ナキニ非ズ且今世ノ部今尙ホ活歴史ノ存スルアリ又タ汗牛モ唯ナラザル明治以降ノ書籍出版セラレ當業者豫メ諒知シアルガ故ニ敢テ徵證書目ヲ掲載セズ

一 本書沿革ノ事項ハ通シテ狀態ノ可否ヲ論斷セズ故ハ複雑ナル事項ト書籍ニ依リ校合纂訂セシ者ナレハ之ヲ讀者諸君ノ判斷試驗石トシテ存シ一ハ著者ノ陋見敢テ諸君ノ高聞ヲ汚ス恐レアルヲ以テナリ

茲ニ殊ニ讀者諸君ニ愛憐ヲ請ハント欲スル所アリ斯ハ編纂上各地當業者或ハ諸會社へ調査ノ事ヲ委シ周テク材料ノ寄送ヲ請ヒタルニ之ニ應スルモノモアリ謝絶スルモアリ又ハ有無ノ回答モナサルアリ故ニ材料ニ乏シク遂ニハ漫遊或ハ官衙ノ書類ニ據リ審サニ蒐集シテ印行ニ着手シタリ然ルニ本年四月事務所近傍ヨリ出火折節西北烈風ノタメ瞬間類焼ノ災害ヲ蒙リ未刷ノ原稿及參考書類ヲ燒失スル事尠カラス僅カニ身ヲ以テ遁レタル情態ナリキ

凡

再ビ調査ヲ遂行センカ出版ハ約セシ期日アリテ發行ノ遲延ヲ讀者ヨリ責促シテ止マズ是ヲ以テ明治以後分殊ニ杜撰ニ流レタル而已ナラズ原稿喪失ノタメ明治後紀ハ茲ニ缺キ更ニ第二版出版ノ當時ヲ以テ追補スル事アル可シ乞フ前陳著者ノ微衷ヲ憫ミ深大ナル宥恕ヲ賜フアラハ千歲ノ光榮不過之也

明治三十一年七月火災立退中愛宕傳叟精舍ニ於テ 著 者 佐 野 瑛 識

例

大 日 本 蠶 史

---

要 概 錄 目 書 考 參

日本蠶史參考書目錄概要

本表列記ノ參考書ハ原著ノ年度ニ從ツテ列序スル者ト雖モ余カ斯史編纂ニ着手シテ以來  
當該書種閱覽ノ順序ニ依リ記載シタル者ヲ其儘茲ニ錄スル故前後錯雜ノ止ムヲ得サルニ  
出ツ閱者幸ニ責ムル無ンハ余ノ幸榮不過之也

明治三十一年七月

佐 野 瑛 識

- |         |        |         |
|---------|--------|---------|
| 神代記     | 古事記    | 日本書記    |
| 皇紀略     | 姓氏錄    | 類聚國史    |
| 神皇紀略    | 吳織神社緣起 | 南留別志    |
| 神紀略     | 氏族志    | 賦役令     |
| 書記集解    | 古語拾遺   | 吳織神社棟札記 |
| 大酒神社由緒書 | 職員令    | 和名類聚抄   |
| 類聚符宜抄   | 職員令集解  | 軍防令     |
| 田令      | 義解     | 續日本紀    |

大 日 本 蠶 史

- |          |         |        |
|----------|---------|--------|
| 文德實錄     | 公事根源    | 日本歲事記  |
| 類聚三代格    | 日本紀略    | 日本逸史   |
| 日本後紀     | 續日本後紀   | 貞觀格式   |
| 三代實錄     | 弘仁格式    | 延喜式    |
| 政事要略     | 舊事本紀大成經 | 羽陽叢書   |
| 官裁申請解文   | 小右紀     | 扶桑略紀   |
| 玉海       | 本朝文粹    | 室町殿日記  |
| 續本朝文粹    | 東鑑      | 平家物語   |
| 北條九代紀    | 新撰六帖    | 制度通    |
| 萬葉集      | 式目新篇    | 式目新編追加 |
| 庭訓往來     | 舊事本紀劄僞  | 古今制度集  |
| 庭訓往來證注大成 | 室町日記    | 日件錄    |
| 文正年代紀    | 職人歌合    | 大友興廢記  |
| 逸史       | 絲亂記     | 御觸書    |

參 考 書 目 錄 概 要

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 野中傳右衛門掟書 | 江次第      | 和歌山藩壁書   |
| 和漢三才圖會   | 萬金產業袋    | 明月記      |
| 絹布重寶記    | 機織彙編     | 地方落穂集    |
| 地方大概集    | 飛州志      | 易林節用集    |
| 地方凡例錄    | 七島調書     | 鷹山侯偉績錄   |
| 江戸總鹿子    | 羽林源公傳    | 松平定信行實   |
| 樂翁公傳     | 熊本俚談     | 節用集大全    |
| 久世條教     | 早川正紀頌德碑文 | 和歌山藩制度調書 |
| 日本鹿濃子    | 褒賞寫書     | 年中行事     |
| 米澤賢侯錄    | 御觸書集覽    | 美濃明細記    |
| 建武年中行事   | 藻鹽草      | 李花集      |
| 群書類聚     | 相摸風土記    | 尾張名所圖繪   |
| 塵添盞囊抄    | 盞囊抄      | 品字箋      |
| 郁離子      | 昆陽漫錄     | 上野國志     |

大 日 本 蠶 史

- |         |             |             |
|---------|-------------|-------------|
| 古事類苑    | 米澤聞書        | 鎔造化育論       |
| 日本風土記   | 神鳳抄         | 會津風土記       |
| 天明太政錄   | 野人私草        | 私家農業談       |
| 草茅危言    | 今昔物語        | 神皇正統記       |
| 雨窓閑話    | 野中兼山先生傳     | 本朝世事談綺      |
| 地方聞書    | 定信掟書        | 田法大意附古今物價通考 |
| 農業全書    | 苞桑錄         | 甲斐國誌        |
| 甲斐叢記    | 萬聞書秘傳       | 萬寶鄙事記       |
| 存採叢書    | 濟民要術        | 駿河記         |
| 承應遺事    | 安東郡沙汰文      | 正保遺事        |
| 鎌倉管領九代記 | 太平記         | 大日本史        |
| 國史略     | 皇朝史略        | 足利實錄        |
| 將軍記     | 水左記         | 安政秘錄        |
| 元治夢物語   | 蠶養ノ仕方(明和年中) | 延享來聘之記      |

要 概 錄 目 書 考 參

- |        |       |          |
|--------|-------|----------|
| 山槐記    | 三朝逸事  | 明君享保錄    |
| 明君德行錄  | 白川惠民錄 | 貞治式目     |
| 板倉政要   | 貞信公記  | 廣益國產考    |
| 京羽二重   | 貴嶺問答  | 增補京羽二重大全 |
| 京都土産   | 八丈島筆記 | 下野國志     |
| 新撰類聚往來 | 駿河風土記 | 丹波志      |
| 丹後風土記  | 和氣絹   | 長崎志      |
| 新猿樂記   | 長崎聞見錄 | 大扶桑國考    |
| 長崎紀行   | 町人袋   | 商戰論      |
| 貞德文集   | 鹽尻    | 雍州府志     |
| 堺鑑     | 貞丈雜記  | 成形圖說     |
| 濃陽志略   | 常陸國志  | 儀式帳      |
| 上杉冢記錄  | 授時圖略解 | 松平家記錄    |
| 柳澤家記錄  | 秋田家記錄 | 忠懿家記錄    |

蠶 史 本 日 大

西上錄

五穀荒豊占

養蠶茶話(明和三年)

養蠶手引(寛政九年)

養蠶往來(天保八年)

養蠶弘教錄(弘化四年)

養蠶ノ法(安政二年)

蠶養手引抄(安政二年)

養蠶手引草(万延元年)

養蠶論シ書(文政年間)

新撰養蠶秘書(寛政二年)

徳川禁令考

横濱蠶絲貿易事情

横濱沿革誌

農家重寶記

蠶養育手鑑(正徳二年)

養蠶須知(寛政六年)

養蠶絹篩(久化十一年)

蠶飼ノ學(天保十二年)

養蠶圖解(天保年間)

蠶婦要訣 未詳ナレモ安政年間ナリト云フ

養蠶顯秘錄(安政六年)

養蠶手引(文政十二年)

養蠶秘書(寶曆七年)

養福壽袋(慶應二年)

徳川實記

日本政治年鑑

蠶絲貿易概説

山繭秘傳抄

養蠶秘書(寶曆七年)

養蠶秘錄(享和二年)

養蠶私記(天明五年)

養蠶要記(弘化二年)

蠶養教諭書(安政六年)

蠶飼ノ仕方書(寛政九年)

養蠶實驗錄(文久 年)

養蠶私錄(元治元年)

養蠶秘傳抄(寶曆七年)

法令全書

統計年鑑

明治總覽

内外生絲相場累年高低表

# 參 考 書 目 錄 概 要

- 關東蠶絲業者錄事  
蠶種檢查法ニ對スル長野縣蠶業家ノ意見  
蠶種檢查法設定ニ對スル意見  
中外蠶業事情  
高山長五郎氏傳  
養蠶訓（文政五年）  
蠶絲貿易要覽  
一府六縣聯合共進會報告  
大日本農會成績書  
農商務省報告  
六縣聯合共進會報告  
日本蠶絲協會報告  
全審查報告  
商人鏡  
栃木主權共進會審查復命書  
第五回關西府縣聯合共進會報告  
全審查報告  
府縣聯合審查復命書  
全寫真  
第一回勸業博覽會報告  
第二回勸業博覽會報告  
內國勸業博覽會報告  
商人鏡  
第三回勸業博覽會報告  
內外改良蠶事全書  
蠶絲業組合中央部月報  
農商務省統計表  
第三回勸業博覽會報告  
第六回九州沖繩外八縣聯合共進會報告  
一府九縣聯合繭絲織物共進會報告  
上野五品共進會報告  
農工商月報  
實業雜誌  
官報  
信濃蠶業沿革史料  
養蠶講義  
農林部私撰解說集  
秋田蠶絲協會報告  
山梨縣蠶絲業史  
蠶學講義  
製絲眞實  
製絲家名譽錄  
日本蠶業史  
日本蠶業史  
五學講義錄

# 大 日 本 蠶 史

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 製絲家必携    | 蠶業學校成績   | 大日本蠶桑史畧   |
| 養蠶經濟論    | 蠶桑餘事     | 蠶桑要論      |
| 大日本織物誌   | 養蠶新論     | 生絲檢查法實際錄事 |
| 米國紀行     | 大日本商業史講義 | 續養蠶新論     |
| 農商務省沿革略誌 | 蠶種製造論    | 帝國商業史     |
| 養蠶真實     | 各港輸出入年表  | 澳國博覽會贊同紀要 |
| 日本商業志    | 養蠶新說     | 名家蠶業書     |
| 發氏養蠶論    | 大日本農史    | 蠶之蛆       |
| 飼育日表     | ハ養學全書    | 西陣織物沿革提要  |
| 蠶病試驗成績   | 養蠶要訣     | 蠶織報文      |
| 蠶種出品解說   | 蠶事報告     | 生絲繭蠶種審查法  |
| 繭絲出品解說   | 大日本產業事蹟  | 養蠶事實      |
| 養蠶沂源     | 生絲檢查要論   | 三河養蠶由來記   |
| 蠶絲業道中記   | 養蠶術      | 蠶家創業要覽    |
| 全枝葉育大意   |          |           |

參 考 書 目 錄 概 要

- 三河養蠶振興說  
生絲試驗伸張力比較表  
蠶絲業組合本部報告  
橫濱生絲十ヶ年概況  
對蠶業獎勵法案全廢意見書  
海外蠶絲業保護獎勵法案  
富岡製絲場記  
日本古代商業史  
德川禁令考後聚  
農商務省沿革誌  
日本社會字彙  
信濃實業新聞  
東洋經濟新報  
農業雜誌
- 蠶事真說  
山梨縣養蠶家略傳  
在晚高波領事報告  
蠶種檢查方案意見書  
對蠶業獎勵法案意見書ニ答フ蠶絲業事實報知  
褒賞實業偉績  
速水先生手記  
大津商業沿革誌  
史料通信叢誌  
實業者調查報告  
帝國議會議事錄  
橫濱蠶絲貿易新聞  
東京經濟誌誌  
蠶業新報
- 養蠶原論  
滋賀縣沿革誌  
農商務省沿革略誌  
蠶種檢查法案全廢意見書  
第四回關西府縣聯合共進會報告  
尾高先生手記  
農商務省錄事綴込  
勝山宗三郎氏傳  
日本風俗史  
大日本農會報告  
日本蠶業雜誌  
蠶之友  
工藝志料

# 大 日 本 蠶 史

農事新報

蠶事新報

史學會雜誌

蠶事要報

史海

帝國蠶業雜誌

史論

扶桑之蠶

府縣勸業月報

農談

府縣勸業年報

大日本蠶絲會報

府縣勸業報告

蠶業方鍼

府縣新聞拔料(二十五種)

農業雜誌

農工商公報

蠶絲要報

夏秋蠶之辯

夏秋蠶改良法

養蠶手引草

博覽會出品解說

蠶桑長策

秋蠶全書

養蠶事誌

蠶業汎論

上毛繭絲改良會社沿革誌

此外尙ホ二百有餘ノ參考書アリト雖モ斯史至要ノ參考書タル可キ者以上ニ於ルカ如シ  
悉クハ他日發行ノ大日本蠶史參考書解題ニ就テ見ル可シ

佐 野 瑛 再 識

# 大日本蠶史

## 正史目次

### 總論

第壹編 正史……………一頁

第一章 太古史……………三頁

第二章 上世史……………七頁

第三章 中世史……………二十五頁

第四章 近世史……………百〇七頁

第五章 今世史……………二百〇一頁

## 目次